



2021年6月入隊

ながでん たつのり
永傳 龍規さん

年齢 36歳
出身 二本松市
前職 イベント企画
サッカーコーチ
家族 妻・子3人・猫2匹

農業以外にも
どんどん自分を
活用してほしい

interview_01

応募したきっかけ

小学4年生の時に、二本松から埼玉へ移住して以来、いつかは福島に帰りたいとずっと思っていました。そして、コロナがまん延し始めたころ、自分の生活環境も変化し、新しい生活に転換しようと考えていたとき、ネットで桑折町の協力隊募集記事の「桃」という文字が目に残り、飛びつきました。もともと桃が大好きで、農業にも興味があり、何より福島の人々の優しさ、桑折町の協力隊制度の、将来へのビジョンがイメージできる点が、決め手となりました。

日々の活動内容

私は今、相原泰之さん(中屋敷)にお世話になってます。研修圃場で桃の栽培を教わり、そろそろ1年が経ちますが、徐々に一人で管理を任せられるようになりました。これも、相原さんが、近所の集まりに積極的に連れて行ってきて、地域のひととなじみやすい環境をつくってくれた影響が大きいです。周りの農家の方と顔なじみになったおかげで、何でも教えてくれる関係性



を築けたので、本当に助かっています。

町の農業に触れて

思った以上に人とのつながりが強いと感じています。隣の畑の人や地域の人、JA職員の人、本当にたくさんの方との関わりがあり、相談や協力もしていただいています。埼玉にいたころは、「農業は大変だからやめておけ」とよく言われていたのですが、皆さん優しく、毎日楽しく過ごせていますし、いくらでも桃が食べられるということが、何よりもモチベーションにつながっています。

受入農家の声



相原泰之さん

受け入れは初めてで不安でしたが、仕事を覚えるのも早いため、なるべく早く自立できるように教えています。末永く夫婦で桃を作り続けて、町の活性化につながればうれしいです。

今後の目標
まずは畑を広げ、農業で生活ができるようになることです。桃が大好きなので、桃をずっと作り続けていけたらと思っています。そしていつか、自分と同じように、仕事や生活に困っている人に、農業という世界を紹介し、農業を教え、後継者を増やしていく活動ができればと考えています。
もし畑や町で私を見かけたら、気軽に声をかけてください。農業以外にも、私をどんどん活用してもらえたらうれしいです。

Feature

地域おこし協力隊と共に歩む 「献上桃の郷」の未来—

現在、全国で活動している地域おこし協力隊の隊員数は6,015人。2009年に制度が発足して以来、過去最多の隊員数となりました。町でも、5人(4月現在)の協力隊が地域活性化に向けて活動しています。今回は、町の「農業」に携わる協力隊3人に焦点を当て、それぞれの活動内容や、町に対する思いなどを聞きました。

協力隊希望者、続々！

地域おこし協力隊とは、都市から田舎に一定期間生活の拠点を移し、さまざまな「地域協力活動」を行いながら、地域への定住・定着を図る制度です。

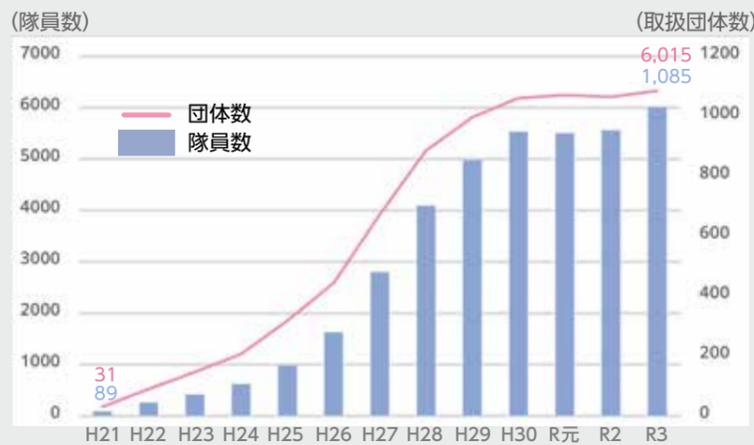
現在、町では、桃農家を目指す協力隊3人が日々活動しています。5月から、新たに1人が加わるなど、入隊希望の問い合わせが続々と届き、農家の後継者不足に悩まされる中、「献上桃の郷」の未来に、明るい兆しが見え始めています。

充実した町の支援制度

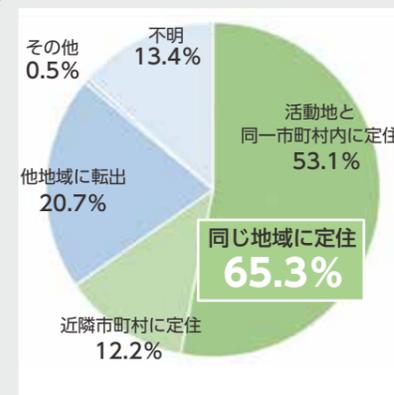
農業分野の協力隊制度は、「献上桃の郷 桑折町」をこれからも維持・継承していく担い手となってもらうため、最長3年間の任期で、桃農家のもとで研修をしながら、栽培技術を習得するとともに、就農までの間、町からさまざまなサポートを受けることができます。町認定農業者会や町農業委員会、農協の生産部会など、相談できる場もたくさんあり、地域全体で新規就農者を支えていく仕組みがあります。

データで見る全国の地域おこし協力隊の動き

協力隊員数・取組団体数の推移



任期終了後の定住率



令和3年度地域おこし協力隊の隊員数等について (令和4年3月18日総務省)